

# 津波

## ◆ 宮崎市にも津波被害はあるの？

宮崎市に大きな津波被害を発生させた地震として、「外所（とんところ）地震」があります。

外所地震は、1662年10月31日（寛文2年9月20日）未明に日向灘で発生したマグニチュード7.6の地震で、記録にある最大規模の日向灘地震です。

震度は6強（佐土原町）～5に及び、大淀川河口、清武川河口、加江田川河口など青島付近で3～4尺地盤が沈下し、加江田・本郷地区の一部沿岸、周囲約32km・田畑8,500石余りが殆んど海に没したとの記録があります。

地震により正連寺平野一帯（JR日南線運動公園駅付近）は水没し、入り江と化しました。清武川は地震の影響で入り江へ注ぐようになり、入り江が埋め立てられた後も加江田川へ合流していました。現在のように清武川が日向灘へ注ぐようになったのは1950年代前半のことです。

このときの津波の高さは、推定4～5mとされ、宮崎市では15名の人命が失われました。赤江村は津波の被害を受けたため、田吉村に移り、加江田神社は海没したため、現在の車坂地内に移されました。この被害を後世に伝えるため、右写真のような石碑が建立されています。



50年毎に建立される供養碑  
(宮崎市大字熊野字島山)

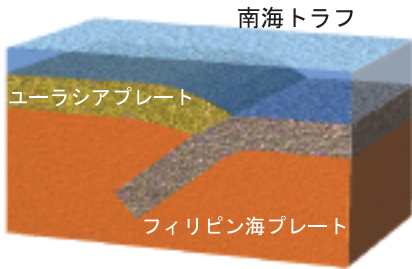
## ◆ 津波と高潮の違いは？

**津波**は、海底で発生する地震に伴う海底地盤の変動（隆起・沈降）や海底における地すべりなどによって、その周辺の海水が上下に変動することで発生します。

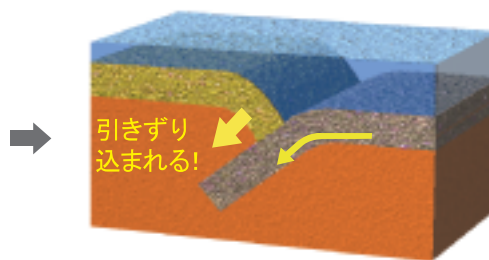
**高潮**は、発達した低気圧や台風接近時に伴う気圧降下による海面の上昇と、強風による吹き寄せによる高波やうねりが合わさって、異常に海面が高くなる現象です。

**高潮**で見られる**高波**は、海面の表面だけの動きですが、**津波**は海底から海面までの海水全体の動きとなります。そのため、**津波**は「水の壁」となって押し寄せてきますから、普通の波と比べて波の高さは同じでもはるかに大きな破壊力を持っています。

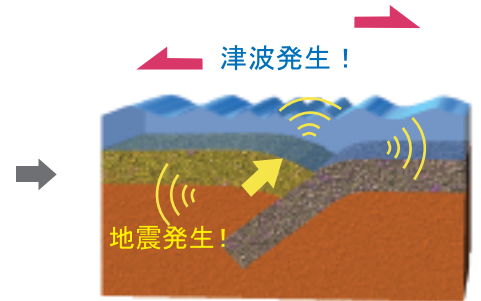
### 津波の発生メカニズム



フィリピン海プレートが南海トラフからユーラシアプレートの下へ沈み込む。

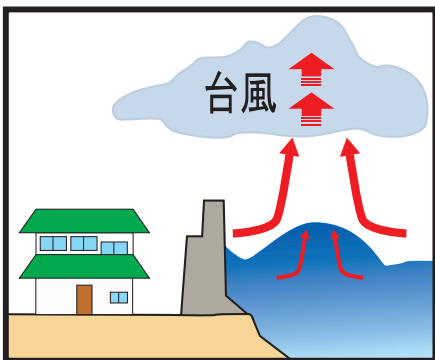


フィリピン海プレートがユーラシアプレートの境界部分を引きずり込むために、ひずみが蓄積される。

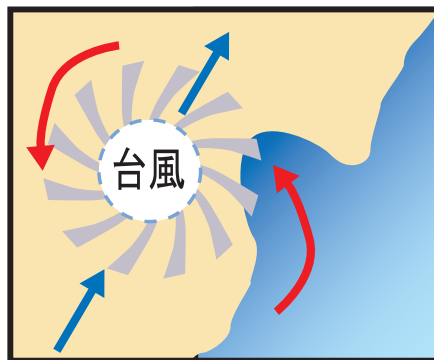


ひずみが限界に達するとプレートの境界が跳ね上がり元に戻る。このとき巨大地震が発生し、海では津波が発生する。

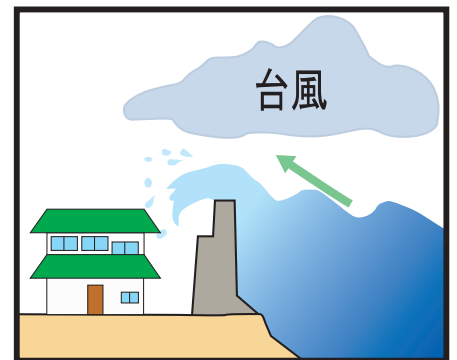
### 高潮の発生メカニズム



周囲より気圧が低くなっている台風や低気圧の中心付近では、空気が海面を押し上げる力が弱くなるため海面の吸い上げが起こり、海面が上昇します。



陸に向かって吹く強風で海水が吹き寄せられ、海面が上昇します。台風内では反時計回りに風が吹くため、進路の右側では風の速さに台風の速度が加わり、風速が速くなって吹き寄せ、高潮が発生しやすくなります。



異常に高くなった海面が、速い速度で陸地に押し寄せます。海の近くで海よりも低い所などで被害が大きく、更に防潮堤が壊れたりすると、被害が拡大します。